

文在寅新政権と日韓関係

静岡県立大学 現代韓国朝鮮研究センター
奥菌秀樹

1. 文在寅＝「親北・反日」フレーム

- (1) 盧武鉉政権期の日韓関係と文在寅
- (2) 2012年大統領選挙における文在寅の対日姿勢

2. 「ろうそく民心」と文在寅政権の誕生

- (1) 「民心」を見極め、反朴槿恵の象徴的存在へ
- (2) 「民心」に縛られ、身動きがとれなくなる恐れ
- (3) 「民心」と疎通し、国民を説得できる可能性

3. 2017年大統領選挙における文在寅候補の対日姿勢

- (1) 大統領選挙と文在寅候補の日本関連発言
- (2) 「10大公約」中央選挙管理委員会提出(4.17)
- (3) 「共に民主党第19代大統領選挙政策公約集」最終版(4.28)

4. 文在寅政権を見る二つの視点

- (1) 理念先行型の急進的改革を志向する強硬路線
- (2) 現実主義的で漸進的改革を志向する柔軟路線
- (3) トップ間をつなぐ日韓水面下外交の必要性

5. 前途多難の船出と独自色アピールの必要性

- (1) 少数与党と連政の可否
- (2) 対北朝鮮
- (3) 対米, 対中
- (4) 対日

6. 揺らぐ「慰安婦合意」と2トラック外交

- (1) 低下する対日関係の比重と日韓関係再定義の必要性
- (2) 朴槿恵大統領弾劾罷免と揺らぐ「慰安婦合意」
- (3) 安倍政権の強硬姿勢―憲法改正と改憲勢力
- (4) 「慰安婦合意」の行方と“2トラック”外交への期待

7. 求められる柔軟性と指導力―戦略的協力関係の強化

- (1) 韓国: 「再交渉」ならぬ「補完措置」, 「後続措置」, 「環境整備」
- (2) 日本: 「慰安婦合意」を前提として何が出来るか
- (3) 平行線と“2トラック外交”の推進